


しかはま自然観察会  『人も 自然も みんなともだち !』 No.18	代表責任者 古高 利男 ☎270-1132 我孫子市湖北台 2-14-7 ☎090-7275-9890 2015, 3月7~8日
--	---

第18回活動「雪の中の里地里山体験」

- ・ ・ ・ 雪は、寒いだけなのだろうか？
- ・ ・ ・ 雪の中で、どんな生活をしているのだろうか。
- ・ ・ ・ 雪の里山は、どんなようすだろうか？

1, 日 時： 2015年3月7（土）～8（日） 天気：晴れ

2, 場 所： みなかみ町藤原

3, 宿 泊： ロッジ樹林

4, 参加者： 4家族 内訳 大人 4  
 中学生 3  
 小学生 4  
 合 計 11

スタッフ：5 総計 16

- \* 雪が、いっぱい～い！！
- \* でも、そんなに寒くな～い！！
- \* だから、雪でいっぱい遊んだよ！！

5, 活動の様子

1日目（3月7日）

◎ 上ノ原雪原でひたすら遊ぶ

宿に、12時過ぎに到着しました。昼食をとった後、いよいよ春の雪山に向けて出発です。宿の車と山口さんの車で送ってもらいました。

今日は、上ノ原の雪原で遊びます。ここはススキ草原で、今までに何度も訪れ、ニリンソウを見たり、ワラビを採ったり、ススキを刈ったりしたところです。だから、地形のイメージはなんとなく出来ています。

が、雪一色の上ノ原は、まるで別世界でした。草原を横切って武尊山へ行く道はどこなのか、全く見当が付きません。雪は、風にあおられて気ままに冬だけの地形を作ってしまったようです。

全員がかんじきをつけ、雪の上を歩きました。数日前に雨が降ったとのことで、雪は堅めで、とても歩き易かったです。

登りながら、雪をぶつけ合ったり、雪だるまをつくったり、雪の上にドーンと寝転がったりしました。そのうち、緩い坂を見つけ、お尻で滑り始めました。これが面白く、大人も子どもも、キャッキヤいながら何度も滑りました。そのうち、背中で滑ったり、胸で滑ったりしました。「尻滑り」だけでないことに、新しい発見をしたようでした。

雪だけを相手に、存分に遊んで、みんないい顔をして宿に戻りました。

◎ 冬芽の観察会

近くの宿には、森林塾青水の人たち9名が泊まっています。その宿で、車座講座「冬芽の観察会」がありました。のらえもんも合流し、いっしょに学習することになりました。

草野塾長がパソコンを見せながら、いろいろ説明してくれました。春に芽を出す準備を、もう冬の間から動き出しているという。その様子を、小枝をピンに差し、時間の流れで変化する場面を見せてくれた。

雪のあるときの木々は枯れ木のように、寒さに耐えながらただじっとしているだけだと思っていましたが、そうではないようです。寒さに耐えられるように、一番外側の皮にはねばねばしたものをつけているものもあるという。また、秋に葉を落とした付け根の跡には、その木特有の模様があるらしい。そんな知識を持って外歩きすると、なんだか楽しくなりそうな気がしてきました。

帰りには、冬の空を見上げて「星の観察」をしました。

2日目（3月8日）

大幽までのトレッキングを目指すグループ、スキーをするグループ、そしてボタ作りを手伝いながら雪遊びを見守る3つのグループに分かれて行動しました。

◎大幽洞トレッキング

参加者：山口、玉田、渡辺、古高

晴れで、雪は硬く歩きやすい。木の枝をみては、昨夜車座講座出で学んだ冬芽を探しながら歩いた。木によってみんな冬芽の形・大きさ・色・つやがちがう。表面がねばねばしたものもある。冬芽観察で寄り道をしていると、歩いているのか休んでいるのかわからなくなる。が、それが楽しい！しかし、大幽洞には至らずに時間がきてしまった。下山は、昨日、上ノ原でいっぱい練習した「尻滑り」だ。雪の斜面を滑り降りる快感！身体全体がふんわりしてくるようだった。

◎ スキーグループ

参加者：平岡映美、山口三美、上田兄弟、春日

宝台樹スキー場で滑るといふ。1月の菅平スキーの余韻が残っているのだろう。ゲレンデの様子は全く違うので、その分、おもしろみがあるようだ。

12時頃、存分に滑って昼食へ。

◎ ボタ作りと雪遊びグループ

参加者：平岡、石井家族、梅川、上田

ボタとは、この藤原で食べられていた郷土料理のこと。残ったご飯を平たいおにぎり状にし、山で採れるオニグルミの実とみそを混ぜたものをぬる。それを竹串に刺して、炭火でじっくり焼き上げるのだ。ここで生産される炭や食材を使っているのがうれしいし、温かい気持ちが伝わってくる。

天気に恵まれた雪のある里山体験であった。が、継続するためには費用や内容の面で検討する必要があるようだ。